

第70期 中間株主通信

2023年4月1日 ▶ 2023年9月30日

株主の皆様へ

平素は、格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。
ここに、当社第70期中間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）の事業の概況をご報告申しあげます。

2023年12月

代表取締役社長 上田 正博

サトー 佐藤食品工業株式会社

証券コード：2814

業績ハイライト

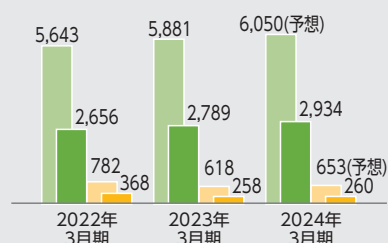
当社WEBサイトでは、決算短信や有価証券報告書など、詳細な財務情報を提供しております。

佐藤食品 IR

検索

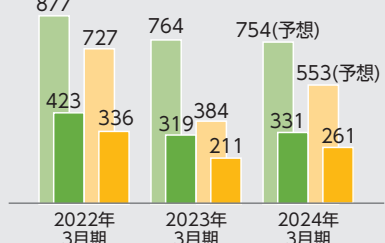
売上高／営業利益（単位：百万円）

売上高（通期 第2四半期）
営業利益（通期 第2四半期）



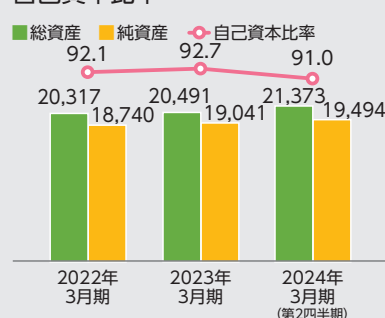
経常利益／四半期(当期)純利益（単位：百万円）

経常利益（通期 第2四半期）
四半期(当期)純利益（通期 第2四半期）



総資産／純資産（単位：百万円）

自己資本比率（単位：%）



役員一覧（2023年9月30日現在）

代表取締役社長	上田 正博
取締役	鈴木 宗行
取締役	大津 新司
取締役	稲垣 篤
取締役相談役	長谷川 憲治
取締役（社外）	秦 博文
取締役（社外）	光田 博充
監査役	垣見 泰年
監査役（社外）	串田 正克
監査役（社外）	稲石 純二
監査役（社外）	関谷 保仁

会社概要（2023年9月30日現在）

本社	愛知県小牧市堀の内四丁目154番地
設立	1954年10月
資本金	36億7,227万5千円
従業員	174名
工場	本社工場 愛知県小牧市 第二工場 愛知県小牧市 第三工場 愛知県春日井市

株式の状況（2023年9月30日現在）

発行可能株式の総数	27,000,000株
発行済株式の総数	4,224,828株 (自己株式5,101,632株を除く)
株主数	1,037名

株主優待制度のご案内

対象	毎年3月31日現在の株主名簿に記載された100株以上の株式を保有される株主様
優待内容	100株～499株 500円相当の当社製品（茶エキスパウダー） 500株～999株 1,000円相当の当社製品（茶エキスパウダー） 1,000株以上 3,000円相当の当社製品（茶エキスパウダー）
発送時期	毎年6月を予定しております

佐藤食品の茶エキスパウダー

当社の茶エキスパウダーは、水に溶かすだけで、誰でも簡単に本格的なお茶をつくることができます。冷水にもお湯にもサッと溶けるので、大変便利です。おいしさはもちろん、持ち運びも簡単で茶殻が出ない等、様々な特徴を有しております。是非この機会にご賞味ください。

[写真は 3,000円相当の当社製品（茶エキスパウダー）]



単元未満株式の買増・買取制度について

口座のある証券会社へお申し出ください。特別口座を開設されている株主様は、口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社（TEL 0120-782-031）までお申し出ください。



サトーは、独自の「粉末化」技術で 天然食品の可能性を追求し、グローバルワンを目指します

製品分野のご紹介



茶エキス ● 売上高：1,297百万円

緑茶、ほうじ茶、紅茶、烏龍茶、麦茶、玄米茶、抹茶、ジャスミン茶、ルイボス茶等

お茶本来の風味を余す所なく粉末化

用途

インスタント茶、給茶機・カップ式自動販売機、製菓、健康食品 など



植物エキス ● 売上高：392百万円

イチゴ、レモン、巨峰、りんご、バナナ、オレンジ、ブルーベリー、シャインマスカット、桃、栗、ゆず、ネギ等

果実や野菜のフレッシュな風味をそのまま粉末化

用途

製菓、健康食品、粉末飲料 など



天然調味料 ● 売上高：1,187百万円

鰹節エキス、昆布エキス、椎茸エキス、酢、魚介エキス（鮭、エビ、真鯛、いか）等
※粉末調味料と液体調味料を合算して表示しております。

天然素材の豊かな味と香りを閉じ込めました

用途

つゆ、たれ、スープ、ドレッシング、製菓、プレミックス など



粉末酒 ● 売上高：53百万円

赤ワイン、白ワイン、清酒、ブランデー、ラム、みりん 等

世界主要17カ国で製法特許を取得！当社の名を
世界に広めたオンリーワン技術です

用途

製菓、プレミックス、スープ など

当第2四半期の概況

当第2四半期累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う行動制限の緩和や、訪日外国人旅行者数が感染拡大前の水準まで回復したことから、人流が回復するなど社会経済活動の正常化が進み、個人消費に持ち直しの動きが見られました。一方で、物価上昇による消費マインドの低下が懸念されることや、国内外の金利差拡大による円安の進行など、依然として先行き不透明な状況が続いております。海外経済につきましては、欧米を中心とした金融引き締めによる景気の下振れリスクや、ロシア・ウクライナ情勢をはじめとする地政学リスクの顕在化など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社といたしましては、変化、多様化する消費者ニーズや顧客ニーズを的確に把握し、それらのニーズに合致した高付加価値製品の開発を実現すべく、新技術開発や新製法の確立に挑戦していくとともに、高止まりする原材料コストなどの動向を注視しながら事業活動を継続してまいりました。

このような状況のもと、当社の当第2四半期累計期間における売上実績は、茶エキスを中心に緩やかな回復基調で推移しました。

茶エキスにつきましては、ほうじ茶エキスが減少したものの、緑茶エキス・紅茶エキス等が増加したため、売上高は1,297百万円（対前年同四半期比15.0%増）となりました。

粉末天然調味料につきましては、粉末ソース等が増加したものの、粉末鰹節・粉末魚介等が減少したため、売上高は849百万円（同4.6%減）となりました。

植物エキスにつきましては、野菜エキスが減少したものの、果実エキス等が増加したため、売上高は392百万円（同6.7%増）となりました。

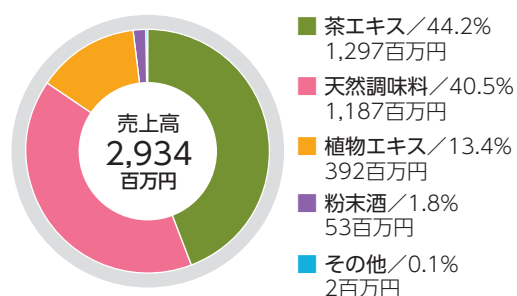
液体天然調味料につきましては、鰹節エキス等が増加したものの、椎茸エキス等が減少したため、売上高は337百万円（同1.6%減）となりました。

粉末酒につきましては、清酒タイプ等が増加したものの、ワインタイプ・ラムタイプ等が減少したため、売上高は53百万円（同2.0%減）となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は2,934百万円（同5.2%増）となり、前年同四半期に比べ145百万円増加しました。

利益面につきましては、売上高の増加により営業利益は260百万円（同0.8%増）、経常利益は331百万円（同3.8%増）となりました。また、法人税等73百万円（同23.8%増）を計上したため、四半期純利益は261百万円（同23.4%増）となりました。

売上高構成比



中長期の取り組み

特に下記の3点を重点課題として取り組んでおります。

① 安全・安心な製品の提供

品質保証プロセスにおけるITシステムを活用した業務改善。

② 生産性の向上及び合理化

原材料コスト変動リスク等に対処した、利益を生み出しやすい生産体制づくり。

③ 高付加価値製品の開発

製販一体となって、顧客ニーズの開拓、それにすばやく応えることができる体制づくり。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。